



文化博物館だより 第202号

2008年1月17日

みなさん、こんにちは。遅ればせながら、新年おめでとうございます。2008年も文化博物館と文博だよりをどうぞよろしくお願ひします。

開会式&オープニングギャラリートーク

新春4日から特別展『遠き道展』が始まり、開会式とテープカットが行われました。出品作家8名も参加し、オープニングギャラリートークが行われました。第一会場<ヴォカリーズ>の宮いつき氏から始まり、宙に浮かんだ象が幻想的な「夜明け前」(依田万実氏)まで約二時間にわたり、作家の人柄や作品にまつわるエピソードが明らかにされました。

講演会のご案内

日程：19日(土) 14時～

講師：今井淳氏(フリーキュレーター)

定員100名 当日、整理券を配布します。

日本ではあまり馴染みがないですが、キュレーターとは英語で、学芸員のような職業をいいます。



手と言葉でみる絵画

13日(日)、視覚障害者の方を対象とした美術鑑賞ツアーが行われました。一人の視覚障害者に対し二名と一緒に会場をまわり作品について会話を交わしながら鑑賞していきます。

三人で作品の前に立ち、視覚障害者の方が「どんな色？」と質問すると「背景は黒、羽は何色だろう？」「黒は昔の日本家屋の板塀のような色なんだけど・・・」などと話し、会話していくうちに作品の色・大きさだけでなく、作者がどんな思いで描いたのかということにまで想像が膨らみます。

触れる日本画やレリーフ・触覚ディスプレイ、そして交わされる言葉による鑑賞。「様々な方法で、それぞれに違った感じ方ができ面白かった」と全盲の参加者の方が話されていました。



ワークショップ「蜜蝋を使った絵を描こう！」

13日の文博はイベントが目白押し！午前中にはワークショップが行なわれました。

最初に、講師の栗田晃宣さん(香川県立盲学校教諭)、蜜蝋ペンを作った田中隆さんによる説明があり、参加者が自己紹介をしていきました。

小学2年のときに学校の先生に画材を買ってもらって以来、絵を描くことへの思いを持ち続けていたという女性は「これから画家になろうと思います！」と意気込みを語りました。

蜜蝋ペンには、上にふたがついていてそこから蜜蝋を入れます。蜜蝋は、蜂の巣をねって粘土状にし、ワックスと混ぜたもの。

混ぜることで溶ける温度が下がり、手で触っているだけでも柔らかくなります。低い温度で扱えてやけどの危険性もありません。筆から出て紙にのると短時間で固まっていくので、描いた跡に触れて確認しながら描いてゆけるのです。



蜜蝋ペン
と蜜蝋



慣れない道具にとまどっていた参加者も、1時間程すると二枚目三枚目と描き進めて、盲導犬をつれた方は犬を描いたり、干支のネズミを描いて指先で出来を確認していました。また、蜜蝋は定規でこそげ落として消すことができるので、描き直しも可能です。



終了後の感想では、描いた筆跡が自分でわかるのがうれしいという声がかれました。どの参加者も非常に積極的で、描く楽しさを満喫しているようでした。

蜜蝋のワークショップや鑑賞ツアーでは、視覚障害者の方たちから「またこういう機会があれば参加したい」という声が聞かれました。まだ展覧会での視覚障害者の方への鑑賞の試みは珍しいものなので関係者など見学する人もありましたが、私にとってはそれだけでなく視覚障害者の方が「楽しみが増えた」と話されていたことや盲導犬の仕事ぶり・賢さを知らされ、印象に残りました。

「遠き道展」は会期後半に入ります。最終日には、大蔵谷獅子舞保存会の方々による演舞もありますので、ぜひご覧下さいね。同じ日に行なう「すりこぎとんぼとわりばし鉄砲」の受付も15日から始まっています。詳細については、HPにもアップしてありますのでご確認下さい。

先日のテレビのニュースに若手の書道家の方が出演して、今年を表す一文字「恵」を書いています。「恵みのある年になるように」と。

2008年が皆様と、文化博物館と、そして私(!)にも恵み多き年になりますように・・・！！

本展での視覚障害の方への試み



「遠き道展」の点字図録。バインダー式になっていて、付属でCDがついています。視覚障害の方には一般の活字図録と同じ値段で販売されています。



触図ディスプレイ。パソコンと繋いで操作をすると、15秒ほどで点(ドット)で作品が打ち出されます！



石膏で作られた作品のレリーフです。本作品の横に展示。もうひとつの作品とも言えるかも？ちょっと見にくいですが、これは「ヴォカリーズ」の部分のレリーフにしたもの。当会場では計3点展示。

点字のポスターです。特殊紙に印刷がされていて浮き上がっています。



音声ガイドでの作品解説。作品の前に立つと聞こえてきます。



チケットにも使われている「空の底」という作品の一部が描かれたもの。日本画の岩絵の具の感触を楽しんで下さい。

このほか、点図化された作品の鑑賞もあります。「遠き道展」は巡回展ですので、明石でみられなかった試みが他会場で行われることもあります。